

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

## 特に注意！（2月）

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・今後の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。
- ・伐採後すぐに処分できない枝や幹、伐採後の切り株については、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

## なす（施設栽培）

## アザミウマ類

- ・苗からの持ち込みによる発生に注意しましょう。
- ・発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布しましょう。
- ・育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用しましょう。
- ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。
- ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

## たまねぎ

## べと病

- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布しましょう。



ミナミキイロアザミウマ成虫※



たまねぎべと病（苗における発病状況）\*

次回の情報は2月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

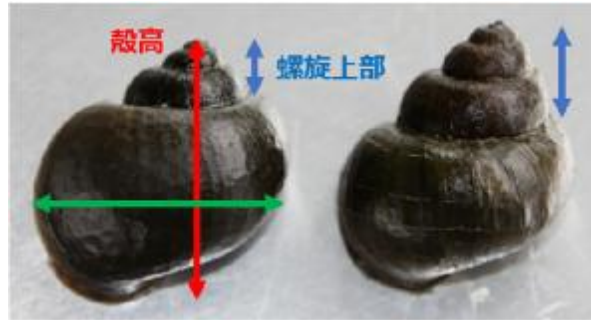
\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## 水稻(越冬対策)

### ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ  
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ



注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

#### 特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

#### 防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆本貝には人体に有害な寄生虫(広東住血線虫)がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

## 果樹

### ぶどう(加温栽培)

#### 灰色かび病



灰色かび病の症状

#### 特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子(分生孢子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

#### 防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図:大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

## クビアカツヤカミキリ



## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

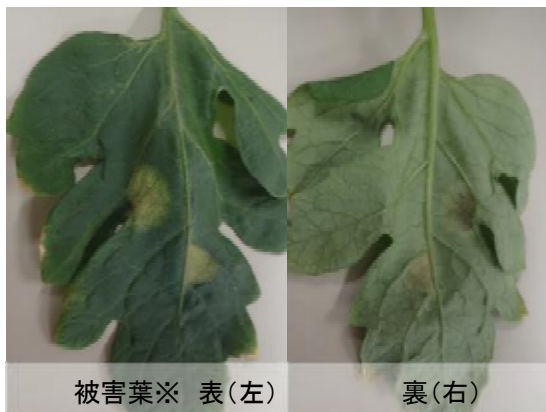
クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0305kubi\\_aka.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0305kubi_aka.pdf)
- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/Aromia\\_bungii\\_manual\\_R3.3.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf)



## トマト・ミニトマト(施設栽培)

### すすかび病



被害葉※ 表(左)

裏(右)

#### 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどを散布する。

### 灰色かび病



被害葉

被害果

#### 特徴

- ◆施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

## きゅうり(施設栽培)

### 黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

#### 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MSV)によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリなどに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

#### 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## 退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉※

### 特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

### 防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はコナジラミ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## なす(施設栽培)

### アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

### 特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

### 防除のポイント

- ◆発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布しましょう。
- ◆育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## あぶらな科野菜（キャベツ、はくさい等）

### 菌核病



キャベツでの発病

### 特徴

- ◆暖冬時に発生が多い。

### 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
- ◆発生が予想される場合は、結球開始期からロブラール水和剤（キャベツ、はくさい）、セイビアーフロアブル20（キャベツ）などを予防的に散布する。

## たまねぎ

## べと病



べと病（苗における発病状況）\*

## 特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

## 防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布する。
- ◆ 越年罹病株は早めに除去する。

## 白色疫病



白色疫病発病株

## 特徴

- ◆ 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

## 防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMなどを散布する。